

# 授業科目 小児発声発語障害学Ⅰ

【担当教員名】  大湊 麗	対象学年	2	対象学科	言語
	開講時期	前期	必修選択	必修
	単位数	2	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】				
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎			
【概要・一般目標：G10】 器質性・機能的構音障害に関する症状や発生メカニズムを知り、必要な検査・診断・評価法や情報収集について学習する。個々の症状にあった指導計画や訓練について理解する。				
【学習目標・行動目標：SBO】 1. 機能的構音障害に関する基礎知識を理解することができる。 2. 器質性構音障害に関する基礎知識を理解することができる。 3. 構音障害の検査・評価・診断を理解することができる。 4. 構音障害の治療を理解することができる。				
回数	授業計画・学習の主題	SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員	
1	機能的構音障害の概念、構音の発達の過程	1	講義	
2	発声発語器官の形態と機能、音声表記法	1	講義	
3	発声・発語器官の形態と機能の検査法	3	講義	
4	機能的構音障害の定義、種類と原因	1	講義	
5	必要な情報の種類と収集法	1	講義	
6	機能的構音障害の検査法と診断・評価	3	講義	
7	発達・心理・社会的側面の検査	3	講義	
8	器質性構音障害の疾患と原因	2	講義	
9	器質性構音障害に関する発語器官の形態と機能の検査法	2、3	講義	
10	口蓋裂の概要、口蓋裂言語の特徴	2	講義	
11	口蓋裂言語の検査法、評価	3	講義	
12	言語治療法（対症療法、長期系統的治療計画、術前術後の母親指導、言語管理）	4	講義	
13	粘膜下口蓋裂、先天性鼻咽腔閉鎖不全症の言語障害	4	講義	
14	口腔癌切除後の言語障害の検査法および留意点	4	講義	
15	まとめ	1～4	講義	
【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)	改訂 機能的構音障害（言語聴覚シリーズ7）	本間慎治	建帛社	2007・2,625円＋税
	器質性構音障害（言語聴覚療法シリーズ8）	斉藤 裕恵	建帛社	2002・2,730円＋税
参考書				
その他の資料				
【評価方法】 定期試験、小テスト、レポート、出席点		【履修上の留意点】		